

生産性向上支援訓練の活用事例

＜品質保証・管理分野＞

【利用事業所】 豊洋精工株式会社・株式会社豊洋メット
従業員数:396人 従業員数98人
自動車等のプラスチック部品製造



訓練受講の背景

これまで品質管理の基本的な教育の機会が少なく、手法を知らなかったり、個々人でバラツキがあったりしたので、一齐に同じ内容の教育を行う必要を感じていた。



要望

- ・ P D C A のまわし方について、なぜなぜ分析の内容を盛り込み、品質管理の基本的な考え方を学ばせたい。
- ・ 各部門の監督者を対象とするが、知識にレベルの差があるので、事前課題に取り組んだうえで受講させたい。
- ・ グループワークを通じ他部門の課題や悩みを共有したい。



訓練の実施

【訓練コース】 「品質管理基本」 2コース：12時間（6時間×2日）

【対象者】 中堅層～管理者層（各部門の監督者クラス）

【主な内容】

- ・ 品質管理とは
- ・ P D C A のまわし方
- ・ Q C 7 つ道具と使い方
- ・ Q C 的問題解決の進め方

【実施時期】 平成30年10月：1コース、平成31年1月：1コース



受講した感想

事業主の声

今回の訓練で Q C 手法を学んだことにより、これまで感覚で判断しがちだった事柄を、数値で分析して判断するように変化しつつあります。今後は監督者クラスが正確な情報を上司へ上げて指示を仰ぐ仕組みを定着させて、次の監督者クラスへも O J T にて Q C 手法を理解させていくように、品質統括部が事務局となりグループ企業の年間イベントとして実施していきたいと考えております。



受講者の声

【Aさんの声】 今回の訓練では、現場改善を行う前の基本的なモノの考え方を学びました。なぜなぜ分析では対策書を作成するうえで必須項目となっており、言葉の使い方次第で相手の受け取り方が変わってくることを知り、伝達に対しての認識を改めることが出来ました。なぜなぜ分析によって真因をどのように見出していかを考えさせられ、不具合を根本からなくす足掛かりを掴むことが出来たと感じました。

【Bさんの声】 品質管理を行う上で、事実に基づいて管理を行うことが大切であり、今後の業務において分析を行う際は、現場・現物をしっかりと見て、経験や思い込みを入れずに、客観的な事実を捉えて、真因を究明して対処し、生産性を高めていきます。